

子牛から教わったこと
～ 1頭のオス子牛を哺育して～

現在私は様々なやんごとなき事情によりオス子牛を1頭哺育しています。我が家にある大きな二ツトリ小屋の一角の3畳ほどのスペースで飼っているのですが、朝晩の哺乳などを通していくつもの「気づき」をもらっています。皆様は毎日の作業でご存知のことばかりなのではと思うのですが、今日はそんな中からいくつか私なりに「へ～」と思ったことを紹介させていただきます。

ただしあくまでも1頭の飼育のみの経験であり、私の主観に基づいた内容です。「こうした方がいい」とか「今までののは間違ってる」というものではありませんのでどうか適当に読んでください。

保温の重要性 ～ミルクの飲みがちょっと悪いは子牛の赤信号～

その子牛が我が家にきたのは1月下旬で生後4日目のことでした。とりあえず子牛用のチョッキを着ていたのですが、この厳冬期のさなかなのこともあり、貼るカイロをチョッキの裏にいくつも貼り付けて夜を過ごしてもらうことにしました。

翌朝はとりあえずミルクを飲みましたが何か元気なさそう…。案の定夕方哺乳をしにいくと子牛はグッタリ、低体温症の症状…。温かいミルクを口に咥えさせるのですが少し飲んではずぐに乳首を離してしまいます。ペットボトルにお湯を入れて背中やお腹に抱かせ、小1時間ほどミルクを飲ませようと努力しましたが結局半分も飲めませんでした。「しまった…朝のうちにちゃんと対処するんだった。獣医なのに何やってんだらうな～」

ということで急いで電気屋さんに連絡し、家の外に外部コンセントを付けてもらう工事を依頼。ただし工事は明日になるとのこと…。さしあたって今夜は昨夜同様貼るカイロを貼り、私の使っているお気に入り毛布を供出しくるんでやることしかできませんでした。

翌朝…かろうじて生きてはいますがミルクの飲みは相変わらずまいち。今日はこの小屋に電気が通るので何とかして温められる。農場にあるような赤外線ヒーターを買おうかな…と思ったのですが「高額な購入費 + 高額な電気代 = 嫁の怒り」という数式により赤外線ヒーターは断念。当てもなくホームセンターをうろつきまわっているといいモノを見つけました！「電気毛布 2000円也」です。とりあえず動き回らない子牛にはこれでよからうということで購入し、子牛のチョッキにクリップで固定。タイマーで30分ごとにONするように設定して夜を迎えてもらいました。

翌朝…昨日までの弱り果てた子牛は見違えるほど元気になっており、ミルクは一気飲み！お代わりを催促するほどの回復っぷりです。ホッと胸をなでおろし、改めて「保温の重要性」を思い知りました。ミルクの飲みに変化があった時点ですぐに温めてやれていたなら、きっとここまで慌てずにすんだと思います。

その後も数回ミルクの飲みがまいちということがありましたが、電気毛布で温めてやることですぐに回復しました。そして生後10日も過ぎるころにはいくら寒くてももう電気毛布は必要なくなりました。

ミルクの濃度 ～濃度は厳密に？～

ミルクは粉ミルクを与えています(CP23% Fat20%)。1回に与える粉ミルクは320g、これを1日2回給与します。なぜ320gかというたまたまあったカップにすりきり一杯いれたらその量だったから…というだけですが、まあ十分な量であると思います。これを生乳の全固形分と同じ13%濃度にするためには2.1%のお湯に溶けばOK！！なのですが…少し濃度を変化させて牛の反応を見ようと思い、粉ミルクの量は変えずに朝は2.5%、夕方は1.3%のお湯に溶いて5日間与えてみました(朝は11%濃度、夕方は20%濃度)。下痢したらやめようと思っていたのですが我が家のオス子牛には全く悪影響はなかったみたいです。ミルクの濃度の変化はそんなに子牛に悪さはないのでは？それともこのオス子牛がたまたま変化に強かっただけでしょうか？

これは今後さらに実験をかさねて検討したいと思いました。濃度にあまり厳密でなくてもいいならその分気が楽だし、飲まず量が少ない方が人間は楽ですから…。ただし水分摂取量が不足する心配があるので、子牛が自発的に飲水できるようになってからとか、暑熱時はダメなどの条件があるかもしれません。

もう一つあまりに当たり前のことなのですが…農家さんとの話の中で「子牛にミルクは何%くらい飲ませているんですか？」なんて質問をすることがありますが、粉ミルクを給与している農場での場合はどの程度のお湯に溶いているかが農場によって違うことが多いので、「子牛に粉ミルクは何グラム与えているんですか？」に変えないとダメだな～と思いました。

ミルクの温度 ～哺乳ビンとバケツで違う？～

ミルクの温度は40～45℃くらいが推奨されていると思います。が…私も最初は注意深く適温にしていたのですが、厳冬期だったので飲めば体が温まるかな～という程度の浅はかな考えでどんどん熱くしていき、ついにはうちの給湯器の設定温度の60℃までなっていました…。ところが哺乳ビンで飲む様子を熱そうにしているそぶりはないし…さてよ、人間だって60℃程度のお湯は飲めるけど、60℃の風呂には入れないよな…ということで実験。いつも通りの60℃のミルクを今度はバケツでやってみました。すると飲みたそうにして顔を近づけるのですが、ちょっと飲もうとしては熱くて口を離しを繰り返しています。上手く飲めずに恨めしそうにこっちを見ているオス子牛を尻目に、哺乳瓶とバケツとでは飲めるミルクの温度が違うらしいことを知って独りで納得。つまり哺乳瓶なら少々熱いミルクでも子牛は平気で飲めるし、これは厳冬期の早朝には子牛を温めてやる効果も期待できるなと感じました。

もっと熱いお湯ならどうなるのか…これはメーカーに聞かないとわかりませんが、おそらく粉ミルクのタンパク質が熱で変性することが考えられるのでやめた方がいいかもしれません。

うんこの量 ～消化吸収のバロメーター？～

朝のミルクをやった後に敷き藁のそうじをするのですが、どうもおかしい。糞がほとんど見当たらないのです。これは子牛がうちに来た当初から気になっていました。たまに見つけても赤ちゃんのこぶしくらいの大きさしかない。「敷き藁の下に埋もれてるのかな？」とか「ネズミが食ってるのかな？」などと勘ぐって見たのですがどうも違うようです。まさか腸閉塞!?でも毎日ミルクは全部飲んで元気そうだし…。仕事先の農家さんでそれとなく相談すると何人かの農家さんも同じようなことを感じていました。

それは「元気で一回も下痢しない子牛は便の量が少ないような気がする」ということです。つまり、健康な消化管でミルクが十分に時間をかけて消化吸収されることで便の量は少なくなるのでは？それは非常に栄養吸収効率のよいことの証しなのでは？

あるいは軟便や下痢というのは水分含量が多いので量が多く見えるということもあるかもしれませんが、下痢や軟便であるということはそれ自体栄養が十分に消化吸収されていないということですよ。

ある農家さんが言っていました。「確かに一回も下痢してない子牛の便は少ない気がする。だけど一回下痢させてしまうと、たとえ下痢が治っても便の量は前ほど少なくならないし、もう固いうんこには戻らないかも」一回下痢させたことで障害を受けた消化管の消化吸収能力は、100%元通りにはならないのかもしれない。

スターターの嗜好性

生後10日もしたころ、そろそろミルクばかりではなくスターターも食べてほしいのですが…目の前においてやっても全く興味なし。慣れれば食うだろうと手で子牛の口に入れてやっつての訓練をするも全部吐き出す始末。しょうがない、またもや農家さんに相談することにしよう。

我が家で与えていたのはオールペレットのスターターなのですが、「フレーク状のコーンとか麦とか入ってるほうがいいんじゃない？」というアドバイスを受けてました。早速少量をいただいて与えてみると俄然興味を持ったらしくクワン匂いをかいでペロリと一口食べました！そして半日経ってみてみるとほぼ完食しているではありませんか!!!

そうか！スターターにも嗜好性があるんだな！それから数日間はペレット&フレークのスターターを給与し、もうだいぶん食べるようになった頃、最初の嗜好性の悪かったペレットスターターを与えるとそれも食べるようになっていました。

ミルクしか知らない子牛にとってスターターは“取っつきにくい食べ物”でしかないのかもしれませんが、それがチョットでも美味しくないともう知らんぷりなんでしょうか…。慣れてしまえば何でもいいのかも知れませんが、最初の“取っつき”には値段は少々高くとも嗜好性の高い逸品を用意しておく必要があるのかもしれない。栄養供給、ルーメンの発育、離乳促進、どれをとってもスターターを早く食べるようになることに超したことはありません。子牛のスターターは一種類でなければいけないというきまりはないようです。